第五講　演習問題 一・二

一　次の文章を読んで、問いに答えよ（設問の都合上、訓点を省略した部分がある）。

晏子聘於呉。呉王曰、「敢問、長保威強勿失之道若何。」晏子①対曰、「A民而B身、A施而B誅。強不暴弱、貴不凌賤、富不傲貧。百姓並進、有司不侵、民和政平。②不以威強退人之君、不以衆強兼人之地。其用法為時禁暴、故世不逆其志。其用兵為衆屏患、故民不疾其労。此長保威強勿失之道也。失此者危矣。」呉王忿然作色不説。晏子曰、「寡君之事畢矣。嬰無斧鑕之罪。③請辞而行。」④遂不復見。

（『晏子春秋』）

注　晏子＝晏嬰。春秋時代の斉の国の宰相。　聘＝使者として訪問する。　呉＝国名。
威強＝強大な勢力。　屏＝取り除く。　忿然＝いきどおるさま。
寡君之事＝我が主君から賜わった務め。　斧鑕＝昔の刑罰の用具。

問1　傍線①の「対」、④の「遂」の読み方を、送りがなも含めて、それぞれひらがなで書け。

①＝

④＝

問2　［A］、［B］に入れる語の組み合わせとして、最も適当と思われるものを、次の中から選べ。

1　A 強　B 弱
2　A 弱　B 強
3　A 先　B 後
4　A 後　B 先
5　A 高　B 低
6　A 低　B 高
7　A 是　B 非
8　A 非　B 是

問3 傍線②の「不以威強退人之君、不以衆強兼人之地」の書き下し文として、最も適当と思われるものを、次の中から選べ。

1 威強を以てせずして人の君を退け、衆強を以てせずして人の地を兼ぬ
2 威強を以て人を退くるの君ならず、衆強を以て人を兼ぬるの地ならず
3 威強を以て退けざるは人の君にして、衆強を以て兼ねざるは人の地なり
4 威強の退くるを以て人の君ならず、衆強の兼ぬるを以て人の地ならず
5 威強を以て人の君を退けず、衆強を以て人の地を兼ねず

問4 傍線③に「請辞而行」とあるが、その理由として、最も適当と思われるものを、次の中から選べ。

1 強大な勢力を長く保って失うことがないようにする道がないことを知って、呉王が憤慨したから。
2 強大な勢力を長く保って失うことがないようにする道が容易なことを、呉王がやっと悟ったから。
3 強大な勢力を長く保って失うことがないようにする道を、呉王が都合のいいように解釈したから。
4 強大な勢力を長く保って失うことがないようにする道を説いたのに、呉王が納得しなかったから。
5 強大な勢力を長く保って失うことがないようにする道が容易でないことを、呉王が納得したから。

二　「班婕妤が団雪の扇」は、班婕妤の雪のように白く丸い扇のことで、前漢の成帝のとき、宮女の班婕妤が帝の寵愛を失った故事を踏まえている。次に、これと同じ故事を踏まえた李白の詩「長信宮」と、それに対する『唐詩解』の解説を読んで、あとの問に答えよ（なお、設問の関係上、返り点および送り仮名を省略した箇所がある）。

月ハ皎タリ昭陽殿
霜ハ清シ長信宮
天（注1）行乗ジ二玉（ぎょく）（注2）輦（れん）ニ一
飛（注3）燕与レ君同ジクス
更ニ有リ二歓娯ノ処一
1 承レ恩楽シミ未レ [A]
誰カ憐マン団扇ノ妾
独リ坐シテ怨ム二秋風ヲ一

此レ為リ下班姫失ヒテレ寵ヲ而羨ムニ二飛燕ヲ一之詞上。月ノ皎タルハ二昭陽ニ一彼之佳景也。霜ノ清キハ二長信ニ一己之落寞也。天子乗ズルヤレ輦ニ、昔欲シ下与レ我共ニ載ラント上、今 B 与二飛燕一同レ之。且ツ歓娯非ズレ一ニ、承レ恩侍リレ寝ニ、其ノ楽シムコト無シレ限リ。誰カ憐マン三団扇之妾、独リ坐シテ而怨ムルヲ二此ノ秋風ヲ一乎。蓋シ太(注4)白召サレテ見ユルニ二金(注5)鑾ニ一之時、帝親為之調羹、後為妃子(注6)所譖、寵遇日ゝ衰ヘ、故ニ托シテレ此レニ以テ自ラ嘆ク。

（傍線部1は「承レ恩」、傍線部2は「帝親為之調羹、後為妃子所譖」）

（注1）天行…天子の行幸。
（注2）玉輦…天子の御輿。
（注3）飛燕…宮女の趙飛燕のこと。
（注4）太白…李白の字。帝に召されて翰林院に出仕した。
（注5）金鑾…宮殿の一、翰林院のこと。
（注6）妃子…楊貴妃。

（Ⅰ） 傍線部1「承レ恩」の主語は誰か。最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

ア 班姫　イ 飛燕　ウ 帝　エ 太白　オ 妃子

（Ⅱ）空欄Aに入る最も適切な語を、次の中から一つ選べ。

ア　極　　イ　失　　ウ　窮　　エ　隔　　オ　絶

（Ⅲ）空欄Bに入る最も適切な語を、次の中から一つ選べ。

ア　安　　イ　況　　ウ　乃　　エ　奚　　オ　猶

（Ⅳ）傍線部2「帝親為之調羹、後為妃子所譖」の返り点の付け方とその現代語訳の組み合わせとして、最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

ア　帝親為レ之調レ羹、後下為二妃子一所上レ譖
「帝はみずから李白に温かなスープを用意し、楊貴妃の非礼な振る舞いを不問に付した」

イ　帝親為レ之調レ羹、後為二妃子一所レ譖
「帝は親切にも李白に温かなスープを調理したが、あとになって李白は楊貴妃に非礼をとがめられた」

ウ　帝親為二之調一レ羹、後為二妃子一所レ譖
「帝はみずからこのように温かなスープを用意したが、その後、楊貴妃のために非難を受け入れた」

エ　帝親為レ之調レ羹、後為二妃子所一レ譖
「帝はみずから李白に温かなスープを調理したが、その後、李白は楊貴妃に誹謗中傷された」

オ　帝親為二之調一レ羹、後下為二妃子一所上レ譖
「帝は親切にもこのように温かなスープを用意し、楊貴妃の告げ口をあと回しにした」

（Ⅴ） この詩の解釈として、『唐詩解』の趣旨を踏まえたうえで、最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

ア 班婕妤は、かつて被った帝の恩寵が今や趙飛燕のものとなり、まるで秋風に打ち捨てられた扇のように寄る辺なく年老いていく身の上を怨んだ。李白は、その班婕妤の哀れな姿におのれの不遇を重ね同情している。

イ 班婕妤は、昭陽殿の美しい景色がついに寂れてしまったように、帝の寵愛もいつかは薄らぎ不遇の身となることを憂えた。李白は、その班婕妤の憂愁に満ちた姿を秋風に破れた扇に喩え、人の一生のはかなさを悲しんでいる。

ウ 班婕妤は、帝の恩寵が薄れるにしたがって趙飛燕の美貌が羨ましくなり、自分の容姿を美しい扇に喩えて帝の側に置くよう切望した。李白は、その班婕妤の振る舞いと楊貴妃の帝に対する身勝手な行動が同じであると批判している。

エ 班婕妤は、帝と共に楽しく過ごした往時を回想し今や寵愛を一身に集める趙飛燕を羨望したが、帝への愛情は扇のように欠けるところがなかった。李白は、その班婕妤の一途な思いに感嘆し、帝への忠誠を新たにしている。

オ 班婕妤は、帝と分かちあった扇を趙飛燕に奪われたため趙飛燕を怨めしく思っていたが、ついに帝の寵愛さえも失った。李白は、その班婕妤の哀れな姿を秋の冷たい風に喩え、おのれには為す術がないことを嘆いている。

【第五講】

〔模範解答〕

一

問1　①　こたへて　　④　つひに

問2　3

問3　5

問4　4

二

Ⅰ　イ　　Ⅱ　ウ　　Ⅲ　ウ　　Ⅳ　エ　　Ⅴ　ア

〔現代語訳〕

一

（斉の国の宰相の）晏嬰が呉の国に使者として訪問した。呉王が言うには、「強いて問うが、長く強大な勢力を保って失うことがないようにする方法はどのようなものか」と。晏嬰がお答えして言うには、「人民を第一に考えて自身を後回しにし、恩恵を与えることを第一に考えて罪をとがめることを後回しにします。強者は弱者を虐げず、身分の高い者は身分の低い者を馬鹿にせず、裕福な者は貧しい者を見下さない。人民があまねく良くなり、官吏が侵犯しなければ、人民は仲よく政治は公正なものとなります。強大な勢力によって（他国の）人々の君主を退位させず、数の力で人々の領地を支配下に治めたりもしません。法を適用するにはその時の（状況を良くする）ために乱暴な行為を禁止するので、よって世はその意志に逆らいません。武力を用いるには多くの人々のために危険を取り除くので、よって人民は兵役での労苦を恨みません。これが長く強大な勢力を保って失うことがないようにする方法です。これを誤る者は危ういでしょう」と。呉王はいきどおり顔色を変え、嬉しく思わなかった。晏嬰が言うには、「我が主君から賜わった務めは終わりました。私には刑罰にあう罪もありません。お別れのご挨拶をして帰らせてください」と。とうとう二度と（晏嬰が呉王に）お目にかかることはなかった。

二

月は昭陽殿の上に明るく輝き
霜は長信宮に清らかに降りている
天子の行幸は御輿に乗り
飛燕が天子と同行する
さらに喜び楽しむことがあり
（飛燕は天子の）寵愛を受けて楽しみはいつまでも続く
誰が団扇の（ような）私を憐れむであろうか
一人座って秋風をうらめしく思っているのを

これは班婕妤が（天子の）寵愛を失い（今、寵愛を受けている）趙飛燕を羨む詩である。月が昭陽殿に明るく輝くというのは、昭陽殿の美しい景色である。霜が長信宮に清らかに降りているというのは、自分の落ちぶれて寂しいさまである。天子様が輿に乗られる時には、かつて私〔＝班婕妤〕と一緒に乗られようとされたが、今ではなんと趙飛燕と同行されている。しかも喜び楽しむことは一つではなく、寵愛を受け寝所に侍り、その楽しみは尽きることがない。誰が団扇の（ような）私が、一人座って秋風をうらめしく思っているのを憐れむであろうか、いや、憐れまない。思うに李白が（帝に）召されて翰林院に出仕した時、帝はみずから李白に温かなスープを調理したが、その後、（李白は）楊貴妃に誹謗中傷され、（その結果、帝の）恩寵は日に日に衰え、よって班婕妤にたとえて自ら嘆いた。